

平成28年10月31日

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日	千葉 茂	〒144-8655 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 片柳学園		平成25年3月1日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-6424-1111				
目的	音楽・音響ソフトに関する専門知識、技術を学び、映像・音響ソフト産業のコンテンツ制作で幅広く活躍できるサウンドエンジニアを養成する。							
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士				
文化・教養	芸術専門課程	レコーディングクリエイター科	平成21年文部科学大臣 告示号外第22号		-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験		
2 年	昼間	1800	1170	0	1350	0		
						単位時間		
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数				
160	人	199 人	4 人	33 人	37 人	人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	<p>■成績表: 有</p> <p>■成績評価の基準・方法 授業日数の4分の3以上出席し試験を受験する。 S:90点以上 A:80～90点 B:70～79点 C:60～69点 D:59点以下は不合格 P:単位認定</p>			
長期休み	■学年始:4月1日～ ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月9日 ■学年末:3月17日～3月31日			卒業・進級 条件	<p>進級要件 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 卒業要件 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること</p>			
生徒指導	<p>■クラス担任制: 有</p> <p>■長期欠席者への指導等の対応 当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。</p>			課外活動	<p>■課外活動の種類 卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭</p> <p>■サークル活動: 有</p>			
就職等の 状況	<p>■主な就職先、業界等 株式会社アンサーズ、株式会社サンフォニックス、株式会社SUDIO MAUSU、ソニーPCL株式会社、株式会社テクニコ</p> <p>■就職率^{※1} : 100 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合^{※2} : 80.2 %</p> <p>■その他 大学編入他 (平成 27 年度卒業者に関する 平成28年5月1日 時点の情報)</p>			主な資格・ 検定等	<p>ビジネス能力検定(B検)ジョブバス 舞台機構調整技能士 JAPRS サウンドレコーディング技術認定試験 JAPRS ProTools技術認定試験 JPPA 映像音響処理技術者資格認定試験 Avid認定 ProTools101、110、201、210M、210P</p>			
中途退学 の現状	<p>■中途退学者 17 名 平成27年4月1日時点において 在学者 207 名 平成28年3月31日時点において 在学者 190 名</p> <p>■中途退学の主な理由 進路変更(就職・進学)、経済的理由、病気治療、成績不良 等</p> <p>■中退防止のための取組 担任による定期的な面談。懇談会・電話連絡等による保護者との情報共有。 職員会議による職員間での情報共有。経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてはカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。</p>			<p>■中退率 8.2 % (平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者を含む)</p>				
ホームページ	http://www.neec.ac.jp/							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

レコーディング分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。

またレコーディング分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
今泉 裕人	一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	①
青砥 州比古	株式会社フリーマーケット 代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
大野昌寛	株式会社キング閣口台スタジオ 経営企画部	平成28年4月1日～平成29年3月31日	③
遠山 一明	日本工学院専門学校 副校長 ミュージックカレッジ カレッジ長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
中村 英詞	日本工学院専門学校 レコーディングクリエイター科 科長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	
只埜 洋樹	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 次長	平成28年4月1日～平成29年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時)

第1回 平成28年3月22日 15:00～16:30

第2回 平成28年9月8日 13:00～14:30

第3回 平成29年3月予定

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

教育課程編成委員会から、議事録は新入社員に書かせる企業も多く、文章を要約してまとめるスキルが直ぐに必要になるため、新聞記事を要約させておる要望があった。現在キャリアデザイン科目で新聞記事要約の取り入れて授業内容を改善し反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

レコーディングの実習において実践的な指導を受けるために音楽録音の実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業からの意見等を参考にし、音楽録音の仕組みや新技術などの技術提供を基にした実習へのフィードバックを行い、次年度のカリキュラムに反映させている。演習などの授業内容を映像化し、委員に見てもらいながら検証を行い、改善点などをフィードバックしてもらう。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
ミュージックソフトプロダクト 1・2	専攻ごとに専門的な実習を行います。	株式会社キング閣口台スタジオ 株式会社ミキサーズラボ 株式会社マトリックス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

レコーディングにおける技術革新の流れは速く、常に最先端の情報を収集し教育に反映させる必要がある。国内のみならず世界でも通用するエンジニアを育成するには、高度な技術と音楽的な感性高め協調していく姿勢を持った人材を育成していくことが重要と考える。そのための教員研修の実施が不可欠と位置付ける。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成27年10月5日(月)10:00~12:00 蒲田キャンパスにて

日本スタジオ協会 会長 高田氏を招いて「今後のこの業界における展望と望まれる人材について」

今後の音楽ビジネス産業の中、音響を取り巻く環境と、歴史から推測する今後の展望について講義を頂き、その後教員と意見交換を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成28年3月31日 10:00~16:00 蒲田キャンパスにてミュージックカレッジ教員を対象に開催。株式会社ホットスタッフ・プロモーション 高村信太氏講演。音楽業界のCD/DVDと音楽配信の売上推移などの最新の傾向を分析して紹介。今後学校教育で求められてくる知識・技術・機材の提案をいただいた。平成28年度に向けて方針を検討し改善点を確認した。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

平成28年9月29日(木) 蒲田キャンパスにて株式会社IMAGICAのミキシングエンジニアの井上氏を招いての教員向け研修会「今後のMA業界について」を開催。特に今後の映像と音の業界の構図や若い人材に何が必要になるかといった講義を行っていただき、その後教員を交えての討論会を行い、今後に向けての方針を検討し、改善点を確認した。

② 指導力の修得・向上のための研修等

平成29年3月 蒲田キャンパスにて教員を対象に開催

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学科のカリキュラムや育成される人材等を企業等に所属する学校関係者から評価してもらい、専門科目以外にも一般科目におけるビジネスマナーや社会人基礎力養成等、次年度以降のカリキュラムに反映させている。また中期・長期にわたる学科の将来性について委員会等で引き続き項目を検討し、次世代に必要とされる人材教育の研究に役立てている。

昨年度の学校関係者評価に基づき、学校関係者から「企業連携等を強化し、専門学校の特徴である職業教育を充実させた方が良い」という意見があつたので、本校では企業と連携した設計課題の作成を授業に取り入れ、地元大田区の企業の方を招いて講評会を実施して連携強化に取り組んだ。また、次世代に必要とされる人材教育の研究に役立てるため、連携企業における研修においても業界の最新情報を収集し、教員のスキルアップを図った。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

教員からの一方向的な講義で知識を覚えるのではなく、学生たちが主体的に参加、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うのを目的としたグループワークなどを実施した方が良いと意見を受け、教員研修の実施や実習などを計画から実施するまでをグループで一貫して行い、今後の学生指導、カリキュラムの設定に反映させる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 代表取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	IT企業等委員/ 卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
工藤 俊一郎	公益財団法人 放送番組センター 顧問	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ企業等 委員/卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興 協会)教育事業部教育推進グループセクションチー フ	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	クリエイターズ/ デザイン企業等委員
浅野 和人	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモー ターズ協会 事務局長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
須賀 寛光	学校法人上野塾 東京実業高等学校 キャリアセンター長 進路指導副部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

〔ホームページ・広報誌等の刊行物・その他()〕 平成28年9月12日

URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/27_kobetsuhyyoka_kmt.pdf (自己評価表)

http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_kankeisyahyyoka_kmt.pdf (学校関係者評価結果)

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に關し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(2)各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3)教職員	教員・教員組織
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5)様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6)学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7)学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8)学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	学校の現況、理念・目的・育成人材像、事業計画
(11)その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: http://www.neec.ac.jp/common/pdf/announcement/17073/28_opendata_kmt.pdf

授業科目等の概要

(芸術専門課程 レコーディングクリエイター科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネススキル1	仕事についての基礎知識などを養い、ビジネス能力を総合的に高めるためのトレーニングをします。	1・前	15	1	○		○			○	
○			ビジネススキル2		1・後	15	1	○		○			○	
○			ベーシックスキル1	音楽業界・放送業界で必要な専門知識の基礎を学びます。	1・前	15	1	○		○			○	
○			ベーシックスキル2		1・後	15	1	○		○			○	
○			キャリアデザイン1	自分の人生・キャリアについて、すべてに共通するポリシーとスキルを学びプランニングします。	1・前	15	1	○		○		○		
○			キャリアデザイン2		1・後	15	1	○		○		○		
○			ワークショップ1	クラス単位でライブ企画や制作プロジェクト、ボランティア活動、就職・進路指導などを行います。	1・前	15	1	○		○		○		
○			ワークショップ2		1・後	15	1	○		○		○		
○			プレゼンテーション1	資料のまとめ方、発表法などプレゼンテーションに必要な技法を学びます。	1・前	15	1	○		○		○		
○			プレゼンテーション2		1・後	15	1	○		○		○		
○			イントロダクション	新入生オリエンテーションと導入教育を行います。	1・前	120	8	○		○		○		
	○		資格対策講座1	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	1・前	15	1	○		○		○		
	○		資格対策講座2		1・後	15	1	○		○		○		
	○		特別講義1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前	15	1	○		○		○		○
	○		特別講義2		1・後	15	1	○		○		○		○
	○		海外研修1	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体感します。（研修先、行程は毎年異なります）	1・通	30	1			○	○	○	○	

授業科目等の概要

(芸術専門課程 レコーディングクリエイター科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
		○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通して自身も社会に関する喜びを得ていきます。	1・通	30	1			○	○	○		
		○	インターンシップ1	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	1・通	30	1			○	○	○		
○			ベーシックスキル3	社会人になるにあたってのビジネスマナー、著作権等法規、音楽基礎知識、パソコンスキル、一般常識等、幅広く学習します。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○	ベーシックスキル4		2・後	15	1	○		○	○	○		
○			キャリアデザイン3	自分の人生・キャリアについて、すべてに共通するポリシーとスキルを学びプランニングします。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○	キャリアデザイン4		2・後	15	1	○		○	○	○		
○			ワークショップ3	クラス単位でライブ企画や制作プロジェクト、ボランティア活動、就職・進路指導などを行います。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○	ワークショップ4		2・後	15	1	○		○	○	○		
		○	資格対策講座3	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○	資格対策講座4		2・後	15	1	○		○	○	○		
		○	特別講義3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前	15	1	○		○	○	○		
		○	特別講義4		2・後	15	1	○		○	○	○		
		○	海外研修2	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体感します。（研修先、行程は毎年異なります）	2・通	30	1			○	○	○		
		○	ボランティア2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して自身も社会に関する喜びを得ていきます。	2・通	30	1			○	△	○	○	
		○	インターンシップ2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。また、内定企業で行われる長期研修です。	2・後	420	14			○	○	○		
		○	キャリアゼミ1	専門分野の教員が進路指導を行うゼミです。	1・後	15	1	○		○	○	○		

授業科目等の概要

(芸術専門課程 レコーディングクリエイター科) 平成28年度														
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
		○	スポーツ実習1	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ実習を行います。	1・通	30	1			○	△	○	○	
		○	英語	日常会話から始まり、海外研修で使える程度までを学びます。	1・前	15	1	○		○		○		
○			ラーニングステージ1	グレード試験とその対策授業です。	1・前	30	2	○		○		○		
○			ラーニングステージ2		1・後	30	2	○		○		○		
○			ミュージックジョブ1	音楽業界、音楽に関連した職業につくための知識を幅広く学習します。	1・前	30	2	○		○			○	
○			ミュージックジョブ2		1・後	30	2	○		○			○	
○			スコアリーディング	基本的な音楽理論や譜面を読む力を育成します。	1・前	15	1	○		○			○	
○			ステージシステム1	舞台、ホールの機構、音響などを学びます。	1・前	15	1	○		○		○		
○			ステージシステム2		1・後	15	1	○		○		○		
○			サウンドシステム1	マイクロホン、ミキサー、レコーダーなど様々な音響機器の原理、機能、システムや電気音響回路の基礎について学びます。	1・前	15	1	○		○			○	
○			サウンドシステム2		1・後	15	1	○		○			○	
○			サウンドミキシング1	音の三要素など音の物理的性質から収音技術やミキシング技術を学びます。	1・前	15	1	○		○			○	
○			サウンドミキシング2		1・後	15	1	○		○			○	
○			Pro Tools 演習1	Pro Tools101資格に必要な専門知識を学びます。	1・前	15	1	○		○			○	
○			Pro Tools 演習2	Pro Tools110資格に必要な専門知識を学びます。	1・後	15	1	○		○			○	
○			基礎演習	スタジオワークに必要な基礎を学びます。	1・前	45	1	○		○		○		

授業科目等の概要

(芸術専門課程 レコーディングクリエイター科) 平成28年度													
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技							
○			専攻演習 1	専攻ごとに必要な知識を学びます。			1・後	30	1	○		○	○
○			Pro Tools 実習 1	Pro Tools101資格に沿った実習を行います。			1・前	45	1		○	○	○
○			Pro Tools 実習 2	Pro Tools110資格に沿った実習を行います。			1・後	45	1		○	○	○
○			ビジュアルシステム 1	テレビ方式、タイムコード、各種映像機器の基本原理や機能、システムについて学びます。			1・後	15	1	○		○	○
○			ベーシックプロダクト	スタジオワークの基礎となる実習を行います。			1・前	90	3		○	○	○
○			ミュージックソフトプロダクト 1	専攻ごとに専門的な実習を行います。			1・後	90	3		○	○	○
	○		プロジェクト 1	学生委員会やワークショップなどで計画したプロジェクトや自主コンサート、学外活動などを行います。			1・通	30	1		○	○	○
	○		キャリアゼミ 2	専門分野の教員が進路指導を行うゼミです。			2・前	15	1	○		○	○
	○		キャリアゼミ 3				2・後	15	1	○		○	○
	○		スポーツ実習 2	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ実習を行います。			2・通	30	1		○	△	○
	○		ミュージックジョブ 3	音楽業界、音楽に関連した職業につくための知識を幅広く学習します。			2・前	30	2	○		○	○
	○		ミュージックジョブ 4				2・後	30	2	○		○	○
○			ラーニングステージ 3	グレード試験とその対策授業です。			2・前	30	2	○		○	○
	○		ラーニングステージ 4				2・後	30	2	○		○	○
○			作品研究 1	レコーディングの名作とされた過去の有名作品を聞き、その良さとは何かを分析し、音のプロとしての耳を鍛え自らも素晴らしい作品を制作する事を目指します。			2・前	15	1	○		○	○
	○		作品研究 2				2・後	15	1	○		○	○

授業科目等の概要

(芸術専門課程 レコーディングクリエイター科) 平成28年度													
分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時間数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技			校内	校外	専任	兼任	
○			サウンドシステム3	マイクロホン、ミキサー、レコーダーなど様々な音響機器の原理、機能、システムや電気音響回路の応用について学びます。	2 ・前	15	1	○		○		○	
			サウンドシステム4		2 ・後	15	1	○		○		○	
○			サウンドミキシング3	音の三要素など音の物理的性質から収音技術やミキシング技術を学びます。	2 ・前	15	1	○		○		○	
			サウンドミキシング4		2 ・後	15	1	○		○		○	
○			マスタリング	マスタリングに必要な知識を身につける。	2 ・前	15	1	○		○		○	
			ビジュアルシステム2		2 ・前	15	1	○		○		○	
○			Pro Tools 演習3	Pro Tools上位資格に必要な専門知識やDAWについてを学びます。	2 ・前	15	1	○		○		○	
			専攻演習2		2 ・前	30	1	○		○		○	
○			Pro Tools 実習3	Pro Tools上級資格に沿った実習を行います。	2 ・前	30	1			○	○		○
			ミュージックソフトプロダクト2		2 ・前	90	3			○	○		○ ○
○			プロジェクト2	学生委員会やワークショップなどで計画したプロジェクトや自主コンサート、学外活動などを行います。	2 ・通	30	1			○	○		
			カレッジプロジェクト		2 ・通	30	1			○	○		
○			卒業制作	専攻ごとに作品制作実習を行います。	2 ・後	240	8			○	○		○
			合計		77	科目			2520	単位時間(118 単位)			

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業時に必修科目1275時間(73単位)取得および選択科目を450時間(22単位)以上取得し、合計1725時間(95単位)以上取得すること	1学年の学期区分 2期 1学期の授業期間 15週
(留意事項)	

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。